

農業を背負う。
軽やかに。

長野県・小海町「眼下に雲海を望む
高原の畑作地。清涼な冷気を帯びた
深い朝もやの中、目を凝らすとそこに、
不思議な影が見えてくる。クボタの
パワーアシストスーツを背負い、重い
はずの作物函を、軽やかに運び続ける
初老の男性の姿だ。

「厳しい農作業、農業経営の複雑化、
高齢化していく就農者―そんな環
境下でも、日本が世界が求める高品
質の農作物を生産し続けることは、
出来ないものなのか」

クボタは、そんな「高い壁」に、真っ向
挑戦しています。

「ICT農機」による農作業の劇的な
軽減、「クラウドサービスSAS」
が生む農業経営の見える化が実現す
る生産性の向上、「クボタチーム」で
地域と寄り添い実践する新しい農業、
国産米を世界に拡げる「海外販路の
開拓」―つまり、クボタは、農機を製
造するだけに留まらず、農業に関わる
すべての領域で、本当に必要とされる
存在であり続けたいのです。

やがて陽が差してみ始めた深緑の地。
かつては過酷と言われた作業を軽やか
にこなすその背中には、滑らかな機
械音。それはきくと、わたしたちクボタ
からの応援の音、農業を背負い続けた
これまでへの感謝と、生涯現役を貫く
これからへの声援を、あらん限りに
込めた想い。

壁がある。
だから、行く。